

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(12月11日～12月17日)

2023年12月21日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- プーチン露大統領は、①ベラルーシ・ロシア両国共同軍事訓練センター設立に関する二国間協定を批准、②軍事分野における地域の安全のベラルーシ・ロシア両国共同での保障に関する協定を修正する議定書を批准し、③ベラルーシの対露債務繰り延べを承認(12月12日)
- アンドレイチェンコ下院議長と露下院議長、アブハジア及び南オセチア「議会議長」の四者会談(於:モスクワ、12月18日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●外遊の総括に関する会合における発言

- ・ルカシェンコ大統領は、出席した首相、副首相らに対し、今次外遊での合意事項の実施を厳命。関係機関が協調して行動し、外務省に全てを集約するよう指示。
- ・コシネツ大統領補佐官には、大統領府における赤道ギニア及びケニアに対する取組を監督すること、シェイマン元大統領官房長には、大統領特使としてケニアを含むアフリカ大陸全般を監督するよう特に指示。また、スノプコフ第一副首相が対中国関係に個人的に責任を負っていることに改めて言及。
- ・今次の中国との首脳会談において、中国側から協議事項に関して共同で取り組む用意がある旨表明があったとして、今次中国訪問は大いに有益かつ生産的と評価。さらに、中国は地球全体にとっての未来と述べ、ベラルーシ・中国関係が良好であることを高く評価。
- ・また、アラブ首長国連邦(UAE)との取組はいずれにおいても停滞はないとした上で、ベラルーシとUAEが、アフリカにおいて共同で取り組むことができるかもしれないということで一致している旨述べた。

(12月13日 大統領府)

【外交】

●ボーツ南アフリカ国際関係・協力次官の来訪

(1)第6回ベラルーシ外務省及び南アフリカ国際関係・協力省間政治協議

- ・ベラルーシ側からはシェスタコフ外務次官が出席。
- ・特に、政治的対話の強化、貿易・経済協力の拡大、

二国間の連携の条約・法的枠組みの拡大につき協議。

(2)アレイニク外務大臣との会談

- ・双方は、貿易・経済関係の発展、特に南アフリカにおける農業機械化プログラムの実施の可能性に注目。
- ・双方は、国連やBRICSなどの国際機関における両国の協力についても言及。

(12月13日 外務省)

●ウクライナとの国境通過地点における共同管理に関する協定の終了

(12月16日 国営ベルタ通信、法律ポータル)

●アンドレイチェンコ下院議長と露下院議長、アブハジア及び南オセチア「議会議長」の四者会談(於:モスクワ)

- ・会談では、「ロシア・ベラルーシ・アブハジア、南オセチアの議会間の協力や社会面・経済面での連携に関する事項が協議された」とされている。

(12月18日 Pozirk)

【内政】

●代表者院(下院)議員候補者の推薦の開始

(12月17日 中央選挙管理委員会)

●12月17日現在の政治犯の数は1,470人

(12月18日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●プーチン露大統領は、ベラルーシ・ロシア両国共同

軍事訓練センター設立に関する二国間協定を批准

・12月12日、プーチン露大統領は、ベラルーシ・ロシア両国の兵員を共同で練成する軍事訓練センターの創立と機能に関する両国間の協定の批准に関する法律に署名。ルカシェンコ大統領は、本年7月17日に、本協定を批准する法律に署名済。

・同センターの設立に関しては、既に2021年3月5日に両国国防大臣が合意。2か所はロシアのニジェゴロド州及びカリーニングラード州、1か所はベラルーシのグロドノ州にそれぞれ設置すると想定されていた。

(12月12日 ロシア大統領府)

●プーチン露大統領は、軍事分野における地域の安全のベラルーシ・ロシア両国共同での保障に関する協定を修正する議定書を批准

・プーチン露大統領は、軍事分野における地域の安全の共同での保障に関するベラルーシとロシアの間の1997年12月19日付の協定の修正に関する両国間の議定書の批准に関する法律に署名。

・修正後の協定には、「地域軍集団の機能」という用語が組み入れられており、地域軍集団を公正する司令部や部隊の平時及び戦時の活動と解釈される。

(12月12日 ロシア大統領府)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(12月11日～12月17日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも1人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも49人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも107人を阻止。

(12月12日～12月18日 Pozirk)

【経済】

●プーチン露大統領は、ベラルーシの対露債務繰り延べを承認

・12月12日、プーチン露大統領、法律「ロシア・ベラルーシ両国政府間の特定の協定の条項の修正に関する両国政府間協定の批准について」に署名。

・11月29日、サザノフ露財務次官は、ベラルーシの要望により、同協定では、2023年4月16日から同年12月31日の期間における対露債務の元本の支払いを、

2029年から2034年の期間に繰り延べることが規定されている旨述べた。

(12月12日 国営ベルタ通信、Pozirk、「プライム・プレス」)

●バルトシュ農業食糧大臣は、ベラルーシは余剰の鶏卵と鶏肉をロシアに輸出する用意がある旨発言

・同大臣は、ベラルーシ国内でこれらの商品の消費量が増加しているため、まずは国内で供給しなければならない点に留意。

・同大臣によれば、ベラルーシでは国内の消費量を20～25%上回る鶏肉、50%上回る卵が生産されており、現在は約1億4000万個を国内市場で消費し、7000万個をロシア市場に供給している。

(12月18日 「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のベルギー訪問

・ボレル欧州連合(EU)外務・安全保障政策上級代表兼欧州委員会副委員長と共同ブリーフィングを実施。ボレル上級代表は、ベラルーシの市民社会と民主勢力に対し、3,000万ユーロの追加の財政支援を行う旨発表。

・メツォラ欧州議会議長、ドーズ・ベルギー上院議長、トゥスク・ポーランド首相、ビルストロム・スウェーデン外務大臣と会談し、EU外務理事会にて民主勢力への支援を求め演説。

(12月11日、12日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●年初以来、ベラルーシで160件の麻疹の発症を確認

・主に、ブレスト、ゴメリ、ミンスクの各州及びミンスク市で発症が確認されている。

・全患者のうち、75%の成人と小児がワクチン未接種。

(12月14日 国営ベルタ通信)

●国境なき記者団は、ベラルーシは拘束されているジャーナリストの数で世界第3位であると報告

・現在ベラルーシで拘束されているジャーナリストは

39 人。また、中国に次ぎ、女性ジャーナリストの拘束者数は第 2 位(10 人)。

(12 月 14 日 国境なき記者団、「ゼルカロ(鏡)」)

【統計等】

●ベラルーシ当局による社会調査

国営「首都テレビ(STV)」は、社会学研究所によって 11 月にベラルーシ全国の 900 人を対象に行われたとする以下の調査について報道。

・安全の度合いについて

「自宅は安全」96%、「居住地の街路は安全」94%、「公共の場は安全」92.8%

・自らの財政状況

「良い」31.8%、「普通」60.8%、「悪い」6.9%

・生活の満足度

「満足している」84%、「不満」13.1%

(12 月 14 日 国営「首都テレビ(STV)」、「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシ人のアイデンティティに関する調査

・社会学者のピカノフ氏及びネステロヴィチ氏は、独フリードリヒ・エーベルト財団の後援のもと、「2023 年のベラルーシ人のアイデンティティ」と題する研究結果を発表。同研究結果は、2023 年 11 月にベラルーシに居住する 18 歳から 65 歳の住民 1,205 人を対象に行われたアンケート調査によるもの。

・調査の結果、ベラルーシ人のアイデンティティを、「意識的」13%、「形成段階」19%、「無関心」27%、「ロシア人化されている」4%、「ソ連的」37%に分類。

・政権の支持に関しては、前年の調査と比較し熱心な支持者が増え、熱心な反対者が減少。具体的には、「熱心な支持者」23%(前年は 9%)、「穏健的支持者」39%(前年は 41%)、「穏健的反対者」28%(前年は 30%)、「熱心な反対者」10%(前年は 21%)。

・軍隊や国家保安委員会(KGB)に対する信頼は、前年と比較し大幅に増幅。「信頼のおける機構」の上位 5 位は、「軍隊、政府、当局を信頼する人々、KGB、検察」であった。

・ウクライナ情勢に関して、回答者の多くはウクライナの住民に対しては好意的だが、ウクライナの指導者に

対しては否定的。回答者の半数近くが、ウクライナではナショナリストやネオナチが権力を握っていると回答。また、回答者の大半がウクライナ侵略戦争を注視しておらず、3 分の 1 以上の回答者はロシア、ウクライナどちらの国も支持していない。さらに、回答者の間ではロシア支持者が優勢でイデオロギーレベルではロシアに共感しているが、実際にはベラルーシの参戦を支持しないだけでなく、ウクライナとの友好関係の樹立を主張する傾向が確認された。

(12 月 15 日 独フリードリヒ・エーベルト財団、「ゼルカロ(鏡)」)

(了)